

はばたき

2013. 冬 No. 73



笑う門には福来たる

新年のご挨拶



理事長
鈴木 碩

新年あけましておめでとございます。皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、平素より社会福祉法人大久保学園の事業の推進に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年におきましても旧年に増してのご支援、ご鞭撻を頂戴できますようお願い申し上げます。

さて、昨年末に行われた衆議院選挙において、三年余り続いた民主党政権から自民党の大勝により安倍政権が再度誕生いたしました。この間三人の首相の交代劇の中、景気の悪化をはじめ沖縄の基地移設問題、或いは近隣諸国との領土摩擦等から様々な問題に発展し、今日抱える大きな課題である震災後の復興支援や社会保障に対する動きは極めて遅々としたものと痛感いたしております。そして前自民党により制度化された障害者自立支援法は民主党政権下において廃案を提起されつつも、つなぎ法案として今日に至

りながら、本年度四月には障害者総合支援法が施行されることとなっております。制度の変革とは裏腹に福祉現場の実態は、先行きの見えない不安を多く抱える時代であったと言っても過言ではありません。どのような時代となっても福祉の理念は不変であること、福祉現場の使命は恒久的であることを、新しい支援法に大きな期待を持ちながら、本年も各事業の取り組みに誠心誠意努めて参ります。

お陰さまで昨年は、法人内のすべての事業が新しい事業体系に移行し、大凡順調な運営にあたることができました。とりわけ入所施設の新体系移行にあつては、多くの不安を持ちながらの開始でありましたが、利用者の皆様をはじめ関係者の方々からのご支援の下、サービスの低下につながるような努力は参りませんでした。しかしながら、高齢化と障害特性の多様化と並行し、若年者との生活環境の混在による個別支援の難しさ、また、日中活動においては、社会不況から来る受注作業の不安定供給と販売への影響、地域生活を支える生活拠点の整備と計画的相談支援等の課題は山積であると言わざるを得ないところでございま

す。真に社会福祉法人大久保学園に求められる期待とニーズに、出来得る限り速やかに実効的な取り組みができるよう役員が一丸となって進めていくことが何よりも重要と考えております。

昨年一〇月に施行された「障害者虐待防止法」の成立は、単に差別条例や障害者権利条約への批准に向けた取り組みとして、我が国が福祉国家を目指すためのものばかりではなく、全国で発生する度重なる権利侵害等により「施設」に対する信用の失墜につながっていることも大きく影響していることと自覚しなければなりません。

これからの福祉施策の大きな柱は「共生社会」。外部からの指導と評価を多くとりいれながら、事業所として透明性の高い運営に努め、利用者本人による自己選択と自己決定が、真に果たされながらサービスの充実に向けていくことが、利用者の皆様とご家族の不安を少なくしていくことに役立つ取り組みとなることと考えます。

法人として今後事業を進めていく中に、地域生活への積極的整備、具体的にグループホーム等の生活拠点の整備、また、入所施設の環境整備と日中活動の見直し等があげられます。集団から個へ、大から小へと、利用者一人一人にきめ細かい福祉サービスの提供がより一層充実したものとなるよう、個々の適性にあわせた生活と活動環境の整備に計画的に

取り組んで参ります。そして現在行っているふなばし工房とみらい工芸館の活動に加えて、船橋市光風みどり園の第二期指定管理者としても更なる充実した活動を目指すとともに、平成二六年四月より開始する予定である「東葛中部地区総合開発事務組合立みどり園」の指定管理についても準備最終年として、万全を期した体制で臨みたいと思っております。

必要な時に必要な福祉サービスを利用することができるよう、法人一体となつた事業の展開を大きな使命として、地域の皆様からのご支援とご協力を戴きながら、職員が安心して仕事をするところができる事業に邁進したいと思うところでございます。

最後になりますが、私、昨年四月より前理事長の石野清治氏より引継ぎをいたしました。歴史ある法人の運営に携わることができ、ことに大きな喜びを抱くと共に、懸かる責任の重さに身の引き締まる思いでございます。諸先輩の皆様によつて今日の法人を築き上げてこられたことを念頭に、微力ではございますが、法人をはじめ社会福祉の向上に僅かでもお役に立てればこの上ない幸せでございます。どうぞ今後とも役員一同に対し、ご指導とご鞭撻を頂戴できることを切にお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



大久保学園学园长兼
ふなばし工房施設長
中原 強

新年明けましておめでとうござい
ます。天候に恵まれた年始、皆様にお
かれましては穏やかで希望に満ちた
新年をお迎えのこととお喜び申し
上げます。また、日頃よりふなばし
工房の運営に對しまして、多大なご
理解とご協力を頂戴し、厚く御礼申
し上げます。本年もより一層職員一
同研鑽に努め利用者に寄り添った
サービスの提供に努めていきたいと
思いますので、皆様のご協力・ご指
導を頂きますようお願い申し上げます。

さて、昨年12月16日の衆議院議員
総選挙の結果、民主党政権が3年3
か月で終焉し、再び自民党・公明党
による連立政権が発足しましたが、
政権をどかが担うかに関わらず安定
した制度のもとで利用者本位のサー
ビスの提供ができることが我々現場
を預かる者としては願うばかりです。
障害者福祉制度は、平成15年に開始
された支援費制度、3年後の平成18
年から開始された障害者自立支援法、
そして、平成25年4月1日からは障
害者総合支援法が施行されることと
なり、この10年の間に幾度となく制
度の変更がなされました。
ふなばし工房にあつては、養護学
校(当時)卒業後の進路、日中活動

の場の要望が地域に多く寄せられて
いたことから、平成8年に定員30名
の通所授産施設として開所いたしま
した。その後も利用者の要望に応え
るべく、平成13年にはペーカリーカ
フェふなばし工房(定員5名)、平成
18年にはみらい工芸館(定員19名)、
いずれも当時の分場として開所、現
在は新制度により、これを統合した
形で多機能型事業所みらい工芸館と
して、更に定員増を図って運営して
いるところです。

ここ数年來、社会福祉現場の実情
とはかけ離れた形で制度が目まぐる
しく変わりに対応に苦慮しているこ
ろですが、前述のとおり平成25年4
月からは、改正障害者自立支援法が、
障害者総合支援法と新たな制度でス
タートします。制度がどのように変
わろうとも私共が担う仕事の目的、
その姿勢は変わることはありません。
利用者の高齢化や重度化をはじめ、
ニーズは多様化していますが、それ
ぞれの働き方を提供し続けられるよ
う本年も職員一同力を合わせ取り組
んでいきたいと思ひます。

どうぞ変わらぬご支援とご協力を
戴きますよう重ねてお願い申し上げ
ます。



大久保学園
施設長
千日 清

新年あけましておめでとうございま
す。皆様におかれましては、穏やかに新し
い年をお迎えのこととお喜び申し上げま
す。

また、皆様には日頃より大久保学園の
事業の運営に對し、格別のご理解とご協
力を賜り、心より御礼申し上げます。本
年におきましても職員一同研鑽に努め、
安心のできる取り組みを全力で進めて参
る所存です。どうぞご指導とご支援を頂
戴できますようお願い申し上げます。

さて、いよいよ今年四月には、現在の
福祉制度「障害者自立支援法」から、新
しく「障害者総合支援法」が施行される
こととなっております。これは昨年末行
われた衆議院選挙による自民党政権の復
活とあわせ、今年七月の参議院選挙の動
向が、今後の福祉制度はもとより、国政
の大きな分岐点であると認識しておりま
す。今日までめまぐるしく制度の切り替
えが行われ、先行きの見えない多くの不
安を抱える中、利用者の皆様をはじめご
家族、また事業所にあつても混沌とした
状況であつたことを改めて思い起こす
と、この新しい支援法に少なからず期待
をよせることは私だけではないと思ひま
す。どうか判りやすい、運用しやすい制
度になって欲しいと願うところです。

昨年に入所施設が新体系に移行し、こ
れにより法人内のすべての事業所が新法

に移つたこととなりました。不安を持ち
ながらの入所施設の移行でありました
が、皆様方からのご支援の下、サービ
スの低下につながることはないよう努め、
何とか今日まで進んできたというところ
です。高齢化や障害特性の多様化と並行
して若年者に向ける個別支援の難しさ、
また、社会不況から来る日中活動等の継
続の困難さ、ケアホーム等地域移行計画
等々、今後計画的に事業を進めていく中
で、これらの大きな課題に對して、ひと
つずつ丁寧に、しかしできるだけ速やか
に具体的計画を示し、実施を目指してい
くことが重要と考えます。

また、昨年一〇月に施行された「障害
者虐待防止法」を考えたときにも、今ま
でに全国で発生した度重なる権利侵害等
を私達は重く受け止め、二度と繰り返す
ことがないよう安心のできる事業運営に
努め、信頼を得られるものにしていか
なければなりません。これからも法人一
体となつた事業の展開を大きな使命とし
て、地域の皆様からのご支援とご協力を戴
きながら、職員が安心して仕事をすること
ができる事業に進進したいと思ひます。

昨年四月より大久保学園で仕事をさせ
て頂いておりますが、ふなばし工房、ま
た船橋市光風みどり園で得た経験と、皆
様からのご支援を糧に、真摯に仕事に向
きあいながら取り組んで参りたいと思ひ
ます。どうぞ今後とも、ご指導とご鞭撻
を頂戴できることをお願い申し上げます。
年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸
を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせて
いただきます。



光風みどり園
施設長
斉藤 航一

新年あけましておめでとうござい
ます。旧年中は、一方ならぬご厚情
を賜り、厚くお礼申し上げます。ま
た、本年も昨年と変わらませぬご高
配を賜りますよう、心からお願ひ申
し上げます。

さて、この年齢になりました初め
て知りましたが、巳年というのは開
運の年回りとのこと。『船橋市光風み
どり園』も、第一期の指定管理期間
8年を無事に終えると共に、4月か
らの第二期の指定管理(5年)を受
諾することが出来、まさに二期目の
スタートを切る開運の年の始まりと
なりました。

ここにたどり着くまでには、利用
者ならびに保護者の皆様は勿論のこと、船橋市をはじめとする関係諸機
関のご協力があつたからこそと心よ
りお礼申し上げます。

今年、障害者自立支援法に変わ
り、障害者総合支援法が施行されま
す。政権や法律が目まぐるしく変わ
る中でも、私ども『船橋市光風みど
り園』(社会福祉法人大久保学園)は、
これまでと何ら変わることなく、利
用者の皆様に寄り添い、日々の一つ
一つの支援を大切にして参ります。
その一つ一つの支援の積み重ねが、利
用者の皆様の安全と保護者の皆様の安
心に結びつき、『みどり園』があつて

良かった」という強い信頼と絆を得
られるものと確信致しております。

小学5年生のお孫さんが、お祖父
さんに初めて手紙を書きました。お
孫さんは気持ちが高揚していたのか、
肝心な手紙を入れ忘れて封筒だけを
ポストに投函しました。慌てたお孫
さんは、折りたたんだ手紙の空白部
分にお祖父さんの家の住所を書いて、
「ごめんさい。中身を入れ忘れまし
た。郵便局の人、どうかお祖父さん
に手紙を届けて下さい」と付け加え
てポストに投函したそうです。その
話を電話で聞いたお祖母さんは、お
孫さんの努力を讃えつつも、心の中
では「残念。手紙は届かないだろう」
と思つたそうです。しかしながら数
日後、郵便局から封筒が届き、その
中に手紙と封筒が揃つて入つていた
そうです。お祖父さんとお祖母さん
は、初めてのお孫さんからの手紙に
感激すると共に、郵便局職員のさり
げない対応に感謝したそうです。

そのまま放つておいても誰も何も
言わない。見過ごしても何も無い。
でもたつた一人の少年が望んだこと
を、その思いを感じ、その背景を思
いやり、郵便局の職員は行動したの
だと思ひます。

小さなことの積み重ね。このよう
な優しさが街中に溢れています。人
が人を思う気持ちに限度はありません。
まだまだ程遠いですが、私達も
そうありたいと思ひます。職員一同
そのような気持ちで日々取り組んで参
りますので、本年もどうぞよろしく
お願い致します。

皆様には穏やかで清々しい新年をお迎
えのこととお喜び申し上げます。平素よ
り格別のご理解とご協力を賜りまして厚
くお礼申し上げます。新年におきまして
もよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますよ
うお願い申し上げます。



PF1事業推進室
室長
藤森 元

昨年、平成24年度は社会福祉法人大久
保学園にとりまして節目の年でありまし
た。様々な議論を呼び紆余曲折のあつた
「障害者自立支援法」の全面施行により、
法人全施設が平成24年4月1日をもって
新体系への移行がなされました。これ
を機会に法人では、各事業の円滑な推進と
更なる活性化、そして5年後10年後の將
来展望を見据えて、組織の再編と人材の
登用を断行したところであります。

その一環として、新たに設置されまし
た「PF1事業推進室」は、東葛中部地
区総合開発事務組合が実施する「みどり
園改築等PF1事業」の選定事業者とし
て施設整備事務、維持管理業務、運営業
務、開業準備業務運営引継業務及び提案
事業とこれらに付随し関連する一切の業
務を所掌することとなりました。

施設整備業務につきましては、PF1
事業(民間事業者の技術・運営ノウハウ、
資金を活用して効率の良い良質な公共
サービスを提供する手法)という、私た
ちが経験してきた従来の施設整備とは全
く違った仕組みでの事業推進に戸惑いな
がらも、事務組合様のご指導の下に、熊

谷組様、昭和設計様、その他の協力企業
様のご協力、ご助言を頂きながら、関係
者が一体感を持って事業を進めていると
ころであります。今年は第二期工事、第
三期工事と平成26年4月全面供用を目指
して、工事を進めていくこととなります。
利用者の皆さんが居住したままでの工事
となりますが、皆さんの安全を第一とし
て工事を進めてまいりますので、何卒ご
理解、ご協力の程お願い申し上げます。
更には、今年のみどり園の運営業務に
ついて具体的な準備を本格化させること
となります。今後私たちが心して取り組
むべき事は、運営業務において利用者さ
んの適切な支援を誠心誠意行う事であり
ます。

東葛地区においてみどり園がこれまで
果たしてきた重要な役割を引き継ぐ、そ
して障害者自立支援法をめぐる議論の中
で、逆に明確になった入所施設(障害者
支援施設)の果たすべき機能。たとえば、
地域での生活を支える為の相談支援や短
期入所の機能を充実させる等々に取り組
むことも重要と考えています。
そして何よりも優先させて取り組むべ
きは、現在利用されている利用者さん、
保護者さんの運営主体が代わることの不
安や心配を出来る限り軽減する為の配慮
をする事であると思つています。利用者
の皆さんが一人ひとりかけがえのない存
在として、健康で安心した生活が出来る
ような支援が可能となるよう、あらゆる
努力をさせていただきます。

「すべては利用者さんの為」この合言
葉の下に法人の総力をあげて前進してま
いりたいと存じます。何卒ご指導、ご鞭
撻を重ねてお願い申し上げます。

社会福祉法人 大久保学園



前を向いて

1111で暮らす人を守り、1111に通う人の力になる

大久保学園 支援課長 吉野 員史

十数年前でしようか。利用者の権利擁護がクローズアップされ各事業所は独自の倫理綱領の作成や職場内での議論が活性化していました。その後、この世界は支援費制度導入の頃から自立支援法へと飲み込まれていった気がします。これは時代背景と共にとどこかで議論する必要があったのだと思いますが、我々現場の職員にとってはあまり楽しい話ではありませんでした。

そろそろ原点復帰。本当に大切なものに向き合う時です。大久保学園で暮らす人達を線で見ると大分、様相が変わってきていますが、そこに眼を取られ過ぎてはいけな
いと思っています。一人ひとりを見ればあたりまえに思春期が訪れ、あたりまえの歳
のとり方をしていくだけのことです。最近、ある職員が言っていました。「利用者の
顔を正面から見れば、色々なことに気付けるはず」。私は机上での調整業務に追われ
る昨今でしたので、結構応えた一言でした。やはり原点復帰です。ここで暮らす人が
気持ちよく生活出来るように。ここに通ってくる人が笑顔で過ごせるように。今号の
表紙を飾った職員の笑顔が皆さんを安心させるのです。

大久保学園は何かの特化した事業所を目指していません。ここを利用して頂く人達
のニーズに合わせて柔軟に対応していくことが使命だと思っています。

同志と挑戦の8年、そして……

光風みどり園 支援課長 渡辺 寛之

平成16年12月某日、突然の異動の辞令に戸惑いと不安を感じずにはいられず、お正
月を悶々として過ごしたことを思い出します。明けて1月から3月まで学園職員6人
で逆風の中、心細く過ごした船橋市との引継ぎ。平成17年4月1日より「利用者の
サービスの向上」を命題に大きなプレッシャーでのスタート。思えば、この8年間、
利用者の増員、作業の効率化、工賃倍増、新法移行等、利用者、保護者のニーズに応
えるべく無我夢中で目の前の問題に挑戦してきたように感じます。千日施設長の下、
若い力で突き進んだ7年間、そして、齊藤施設長の下、指定管理の継続が現実となり
ました。手前味噌になりますが、光風みどり園は活気と笑顔が溢れる施設に変わ
り、今では、自信をもってこの施設で働けることを喜びに感じています。

異動や結婚など、何らかの事情で一緒に仕事してない職員もいますが、職員全員
が、私にとって苦楽を共にし、同じ志をもった「同志」と思っています。
さあ、今年度しっかりと締めくくり、次年度職員のチームワークで更なる挑戦の年
としていきたいと思えます。

「はたらく」ということ

ふなばし工房 支援課長 関 厚

道路工専用ピカピカチューブ、子供自転車
の組立て作業、紙トレイ製造、そしてプラ
チック成型作業とよもや福祉施設での作業と
は思いもよらぬこれらの作業を大久保学園で
は利用者の作業として行ってきました。障害
の程度に関係なくそれぞれに合った形の「は
たらく」が40年超の学園の歴史の中に脈々と
流れています。

ふなばし工房に昨年春に二年ぶりに戻っ
てきましたが、利用者が80名を超える大所帯
となり、一方当時各作業班で活躍されていた
利用者さんは就職しており、働いている利用
者さんの顔ぶれもだいぶ変わっていました。
真っ黒に日焼けした額に大粒の汗をかきなが
ら働く19歳のS君、品格のある白髪でパンを
成形する75歳のHさんと、老若男女・求める
サービスも多種多様であります。みなさん
に共通して言えることは、働くことをとても
楽しんで行っているということです。

今後我々職員は、個人の状況や特性、人
との相性、作業適正をしっかりと判断し利用者
に寄り添える支援のプロとして、そして農家
にもパン屋にも技術屋にも負けない、その道
のプロとして日々勉強し取り組んでいきたい
と思います。それが、大久保学園の理念であ
る「はたらく」を色濃く受け継いでいるふな
ばし工房の役割だと思います。



光風みどり園 花壇コンテスト入賞!



花壇を作るにあたって「今回のデザインは丸を使う」「青のサルビアで高さを出して高低差をつけるのもインパクトあるね」。みどり園の花壇を作るときは季節の花を使うこと以上にデザインや色使いに意識を置くことが多いです。

今回、船橋市公園緑地課が主催した花壇コンテストで「GAちば・花緑の会賞」という審査の中で一番評価のある賞を受賞できました。この受賞は今に至るまでに様々な人からの感想、そして園芸班のスタッフとメンバーが一緒になって作り上げたからこそ受賞できたと思えます。多くのメンバーが共に取り組むことで、一つの考えから複数の工夫、皆のアイデアの合作だと思っています。これからもスタッフ、メンバーが丸となってより斬新なデザイン性の高い作品を作り、花壇を彩っていきたいと思っています。

大久保学園サクシードに出演依頼殺到!



新船橋イオンで販売・出演させて頂きました。

利用者・職員共にアベック優勝!



昨年10月に県陸上競技場で開催された「第39回スポーツの集い 対抗リレー」において久しぶりにアベック優勝を飾りました。

2012年こんなことがありました

ふなばし工房 数々のメジャー進出!

利用者が携わった商品をメジャーの世界で通用させる信念!



幕張メッセで開催された「恐竜王国2012」内でクッキーを販売しました。



四国の南海放送キャラクター「ウイット」のクッキーを制作しています。



中央自動車道八ヶ岳SA売店にて「ラスク」の販売が始まりました。

原宿ホーム式番館 (定員10名) オープン



大久保学園 東館玄関リニューアル



寄付金

平成二十四年四月一日
〔平成二十四年十一月三十日〕

〔後援会〕

矢作 栄・岩崎与一・矢口勇雄・西原庸介
 林 宣男・関 ミヨ・初山敏雄・七海勝則
 吉内厚子・吉内美保・大久保喜枝子
 平山 実・萩原 誓・福谷長久・大川勝幸
 堀内靖夫・矢下春男・針谷喜美恵
 石川 清・野田 尚・蛸島英二・白倉きよ
 浅井栄三・吉田幸男・飯塚 昇
 加藤金太郎・吉田房夫・中村靖雄
 渡邊 晃・陶山 勲・植草米子
 大河原敏男・大谷京司・相内勝正
 友菊隆志・村林説子・加藤房治・小淵佳枝
 井上英子・川嶋安子・豊田幸子・野尻武生
 大沼政子・木原勝美・篠崎春夫・染谷寛治
 (株)エイシントート 桐山 昇・板振 勇
 根本二夫・笹山晴夫・平塚芳昭
 廣瀬平二郎・梅津正信・矢島弘文
 (株)伊賀谷・石塚 宏・並木信子・岸 勝弘
 井上正記・坂元哲雄・岡田敬司・青木常子
 中島信二・高橋 實・本 忠信・柴垣謙介
 川上久雄・津浦邦次・長野健一・奥村 博
 奥田寛美・大場富美子・金成幸一
 鈴木成子・坪内宣昭・清田久子・平山吉己
 近藤裕昭・西井建二・戸倉陽子・宮澤迪夫
 武正理恵・布施義高・布施充蔵・渡辺和雄
 本澤正行・菅谷くに江・來栖 修
 トーワン観光(株)・山崎孝子・保坂英夫
 板橋いと子・(株)サクraisポーツ
 成瀬敏之・加増錦太郎・関口多比子
 石塚 渡・其田鉄三郎・青野準一
 鈴木 繁・中島久志・長田全弘・鈴木壽子
 山路康一郎・新里玲子・田辺誠司
 唐鎌良枝・渡邊久美子・上條茂樹

石井莊也・鈴木葉子・長尾義秋
 大出喜美子・長谷部健二・工藤文一
 石井冬子・日下部敏和・岩田善二
 折田梅男・林 静子・高安裕子・矢作 豊
 平 敏行・山崎つたい・岩崎信雄
 室井真子・平岡勝彦・柴田茂昭・北村一義
 岩間家具産業・依知川節子・依知川一成
 協栄農資(株)・田中博雄・安田早苗
 橋本憲一・渡邊弘子・中村恵美子
 鶴沢正己・栢野好勝・柳原憲治・飯塚三郎
 谷口貞雄・高橋靖昭・山口泰男・末延久子
 渡邊昭夫・岡野悦子・長浦健二・田河宣行
 萩原幸男・齊藤尚夫・齋藤 武・藤城チエ
 杉本浩司・太田黒泰子
 三井住友銀行船橋法人(営)・三浦幹夫
 高橋多恵子・宇山邦彦・米澤頼子
 (株)高橋電設・遠藤 登・長島隆男
 平野義久・平山正明・田中良江
 北総保険企画・曾我米吉・平野義直
 平井好江・渡部純一・大木正行・廣島優子
 太田康明・大澤征一・川尻儀一・鈴木健三
 中川聖治・川瀬育子・糸川 昇・金子澄子
 末広自動車(株)・澤 百合子・大堀勝朗
 竹原力工・中村迪子・小林栄三・清水宏要
 飯塚浩之・逆井 保・渋谷京子・齋藤増子
 岩下てい子・石塚 宏・永田笑子

〔一 般〕

藍 栄子・(株)雅セラレモニ
 ふなばし工房保護者会・平山正明
 中村香能子・霊友会・加藤金太郎
 大久保学園保護者会・和田浩行

(敬称略)

ありがとうございました

竜巻被害 お見舞いを頂いた方

昨年、9月1日深夜に学園敷地内を竜巻が通過し、学園のガラスハウスとふなばし工房のビニールハウスを全壊させました。他にも園内の樹木がなぎ倒される被害に遭いましたが、深夜帯であった為、利用者の身に危険が及ぶことがなかったのは不幸中の幸いでした。

その節はたくさんのお見舞い有難う御座いました。

石黒電気管理事務所
 (編)心聖会・(株)東進ビルシステム
 (株)丸鈴代表取締役 鈴木章浩
 (株)千葉銀行二和向台支店
 霊友会
 北総保険企画(株)代表取締役 宮本 忠
 豊富地区社会福祉協議会 会長 平川 茂
 トーワン観光(株)代表取締役 田丸幸男
 旭建設(株)
 (株)天野さく泉建設代表取締役 天野昌樹
 大久保圭助・石井喜代子
 八街わらの里・雨宮育子
 学校法人増田学園千葉女子専門学校
 紙すき工房「空と海」・藤良苑
 大久保学園保護者会
 ふなばし工房保護者会
 船橋市光風みどり園保護者会



それぞれの施設だより

大久保学園

余暇活動の大切さ

今回は余暇活動について紹介したいと思います。

週末には園庭でボール遊びをしたり、室内でDVD鑑賞やたっぷり3時間カラオケをしています。また、月に1〜2回近所のコンビニに行きお菓子やジュース等お小遣いで好きな物を買えるような外出も行っています。



余暇活動の中には誕生日外出というものもあり、その月の誕生日の方が好きなお店に夕食を食べに行きます。外出をすること、好きな物が食べられる喜びで、利用者の皆さんはこの外出をとて楽しみに行きます。

マイクを持って好きな歌を歌っている時、食べたいお菓子を目をキラキラさせながら選んでいる時、テーブルに大好きなメニューが運ばれてきた時、その表情はいつだって生き生きしています。

利用者の意見を出来るだけ反映し、満足してもらえるような余暇活動を考え提供していきたいと思っています。(山田)

ふなばし工房

The 農園芸班



社会で生活していく為にはお金が必要である。お金をもらうには働かなくてはならない。農園芸班では「働くという意識」への支援に力を注いでいます。近年、目指して来たものが浸透してきたと実感しています。その意識が作業能率や責任感の向上、社会性の体得へと繋がっています。また、農園芸班の作業工程は複雑で、一年に数回しか行わない作業もある為、覚えるだけでも容易ではありません。農園芸班が年間売上げ約一千万円の生産性を得る事が出来たのは、そんな中めげずに作業に取り組んでいる利用者の方たちがいるからなのです。夏の猛暑、極寒の冬、雨や風と闘いながら一生懸命働いている利用者の方たちには頭が下がります。しかし、まだまだこれから！売上げを上げる事ももちろん、利用者の負担が少なくなる様、「楽に作業を行う為の工夫」や、難しい作業も(出来ないだろう)と決めつけない「チャレンジする場の提供」を行っています。売上げを上に伸ばしていく為に、「働くという意識」「楽に作業を行う為の工夫」「チャレンジする場の提供」という根をしっかりと這ってかなくてはなりません。(武藤)

光風みどり園

沖縄と福島に行つて来ました

昨年、光風みどり園では3年間積み立てを行ひ楽しみにしていた2泊旅行(沖縄)に約60名の方が参加しました。中には飛行機に乗るのが初体験という方もおられ、飛行機が飛び立つまで職員は冷や冷や...無事に飛び立つことが出来た時はホッとしました。現地では天気にはあまり恵まれませんでしたが、沖縄に行くのが初めてという方も沢山おられ、見る物全てに興味津々。とても楽しんでおられました。沖縄旅行では恒例の宴会がなく、旅行に参加された利用者の中には残念がる方もいましたが、逆に夜海辺を歩いたり、街に繰り出したりと1泊旅行では体験できない事が出来、思った以上に楽しめたようでした。

1泊旅行(福島)は10月に予定していましたが、台風の影響によりやむなく12月に延期。寒い時期ということもあり、観光内容を一部変更しましたが、天候に恵まれ、思ったより暖かく、のんびり旅行が楽しめました。宴会は毎年恒例。カラオケでは大いに盛り上がり、皆さん本当に楽しまれました。(須藤)



地域生活支援センター

新年おめでとうございます。日頃より就業・生活支援センターの業務にご理解・ご協力頂きまして誠にありがとうございます。新しい年が明け、障害者雇用も本年4月からの雇用率の引き上げ(1.8%↓2.0%)に伴い更に動きが活発化しそうな状況です。また、就業・生活支援センターの全国組織、全国就業支援ネットワークからの委託事業もあり、1月12日には海浜幕張の障害者職業総合センターで「働く知的障害者からのメッセージ発信事業」というタイトルでセミナーを開催いたしました。今後、より多くの障害をお持ちの方が経済的な自立の上で欠かせない就業というステージにステップアップし、自身の力を発揮して社会的にもその存在感をより一層示していくサポートをして参りたいと思っております。寒さの厳しい冬にはじっと根をはり、春に綺麗な花を咲かせるように、相談者・登録者の声に耳を傾け、また激励しながら厳しい環境を躍進のバネに変えて、就業・生活支援センタースタッフも共に、新たな目標と新しいスタートを目指して本年一年も頑張つて参ります。(入澤)

憶 記 る 逸

きっかけは笑顔でした

大久保学園 鈴木 梨紗



私の幼い頃の夢は、幼稚園の先生になる事でした。三歳からピアノを習い始め、音楽を奏でる事が大好きだった私は、幼稚園の教室にあるピアノを毎日弾いては友達と歌を唄い、楽しい幼稚園生活を送っていました。

「将来はこんな風に音楽と一緒に皆を笑顔に出来たらいいな」と、その頃から思うようになりました。

私の母は、以前保育士をしており最近までは知的障害者支援施設で働いていました。不規則な勤務で、ヘトヘトになりながら帰ってくる母でしたが、口にするのはいつも利用者さんの事はかりでした。大変ながらも生き生きとした表情がとても印象に残っています。そんな母の姿を見て、福祉への興味を持ち始めました。当時、母の勤め先だった施設でお祭りがあると聞き、私も参加させてもらおう事になりました。すると、初対面にも関わらず、すぐに私の周りにたくさん利用者さん達が集まってきてくれました。そして、満面の笑みを浮かべながら何のためらいもなく、握手をしてくれたり一緒に踊ってくれたり、接すれば接する程に温かくて優しい気持ちになっていきました。手から手へと伝わる温もり・純粋な心・屈託のない笑顔にとても癒された一日になりました。

その日をきっかけに関心が更に深まり、児童福祉が学べる専門学校への進学を決めました。保育園・幼稚園・施設と実習を重ね、色々悩んだ結果「大久保学園」へ就職する事になりました。

就職してから4年。現在も、あの日と変わらぬキラキラした笑顔と、柔らかな温もりを利用者の皆から、たくさんもらっています。私の好きなピアノも、音楽が大好きなサクシードメンバーと一緒に、毎月活動する事が出来てとても嬉しいです。幼い頃の夢だった「音楽と一緒に皆を笑顔に」が実現出来ました。時間の流れは年々早く感じ、慌ただしい毎日ですが出来るだけ心にゆとりを持ち、一人ひとりに寄り添える温かい支援を今後も心がけていきたいと思っています。そして、たくさん笑顔と勇気をくれた利用者の方々に、これからは私が笑顔を届けていきたいと思っています。

何となくから確信に

大久保学園障害者就業・生活支援センター 矢吹 亮介



高校三年生の秋、進路調査という書類を先生から渡され、今後の進路について考えなければならなくなり、それまではひたすら部活に打ち込む毎日で、今後の進路のことは漠然とした考えしかなく、大学進学できればと思う程度でした。大学進学と言ってもどの分野に進むのか悩みました。当時、母親が介護のパートで働いており、話を聞くなかでも遣り甲斐のある仕事なのだと感じていたことと、これからの高齢化社会に貢献したいと浅はかな考えもあり、福祉分野の大学に進学しました。

介護の勉強との意気込みも薄れつつあった大学一年生の終わりに、友人から人数が足りないからということでボランティアサークルに誘われました。あまり気が乗らなかつたのですが、今振り返ってみるとこのサークルとの出会いが、私の人生を転換させた出来事でありました。サークルでは知的障害児の余暇活動のボランティアとして、外出の引率や行事の運営等を学生が中心となって活動しているサークルでした。昔から子供が大好きで、近所の子供たちの面倒をみることをしていたので、すぐに馴染めました。始めは月一回ある行事の手伝いでしたが、夏休みや年末年始等の長期休みに利用される方の受け入れがあり、アルバイトとしても参加していました。大学生の大半をサークルでの活動に費やしました。そのくらい興味関心を持ち、ここに通ってくる子供達のひたむきさや純粋さに惹かれ、今後の進路としても関わっていきける仕事に就きたいと強く感じたことを思い出します。

昨年の四月から就業・生活支援センターに配属となりました。相談支援が中心となる現場での仕事となり、より一層の遣り甲斐と責任感を感じながら日々仕事に従事させて頂いています。これからも福祉についての興味関心は尽きないと思います。周りの方々を支えられて今があることを感謝し、相手に寄り添った支援を心がけ頑張っていきます。

平成24年度 苦情解決窓口 相談内容 (12月現在)

成人式

○利用者の生活環境に関する事項

..... 1件

○利用者同士の対人関係に関する事項

..... 1件

○保護者への連絡・説明ミスに関する事項

..... 3件

○私物品の紛失に関する事項

..... 0件

○支援内容に関する事項

..... 6件

(何でも相談室の相談も含む)

支援内容に関する事項では、体に出来たアザや傷等の怪我についての指摘がありました。平成24年10月に虐待防止法が施行されて苦情解決の重要さが高まっているのを感じています。

今後、利用者の声なき声に耳を傾けると共に保護者からの相談受付数を増やすことで施設サービスの質を向上させていきたいと思えます。

苦情解決委員会 宮本福太郎

風の詩

何十年も続くケアホームのはじまりの瞬間に立ち合えた事は誰もが出来ることではない。ケアホームに最初に配属された職員なんだよと誇れるように誰もが羨むようなホームを目指します。 近藤 桂太

日々の動き、日々の会話、日々の頑張り。支援員が利用者を見る以上に利用者が支援員を見ている。必死になって、時にはだらけて、お互いに高め合いながら頑張っていけたらと思います。 武藤 広幸

生活班が出てもうすぐ2年。利用者が所属しない活動班ですが、毎日の通院や送迎、掃除機掛けなど頑張っています。他にも壊れている所が直っていたり洗濯機やお風呂がキレイになっていたりします。そんな生活班の頑張りを見つけて下さい。 大黒 早紀

今年は二人の利用者が成人を迎えました。

園芸生産班所属の古田智己さんと通所班所属の鏡健太さんです。

古田さんは常に元気いっぱい力強く園内を駆け回っています。

その力強さが作業班でも生かされ、一輪車を使った仕事や出荷の準備に大活躍です。鏡さんはカラオケやアニメ

が大好きで、知っている曲が流れると立ち上がってフロア中に響き渡るような大きな歌声と周囲を圧倒するような踊りを披露してくれます。

大人の仲間入りを果たした二人ですが、今後どのように成長していくのか、それは周りの環境にも大きく左右される事だと思えます。

持っている力を眠らせたままにせずに、最大限発揮出来るような環境づくりに努めてまいりたいと思います。

そして何より笑顔に溢れ日々の生活に満足してもらえるような生活環境と支援を提供していきたいと思っております。

これからも成長の階段を一步一步突き進む二人を職員一同心から応援しています。

成人おめでとうございます。



鏡 健太さん

古田智己さん

行事予定

3 施設全体行事

2/2 障害者自立支援セミナー

2/23~24 作品展 イオン八千代緑が丘店

3/15 法人会議



吉野

冬の花壇の玉様と言われるパンジーは、雪に埋もれる程、春に満面の花を咲かせます。「笑う門には福来たる」今年も皆で楽しく忙しくやっていききたいものです。

はばたき 二〇一三 冬号 七三号

発行/平成二十五年二月

発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二

FAX 〇四七(四五七)四〇六九

URL http://www.okuboogakuen.or.jp

Mail shienka@okuboogakuen.or.jp

編集/大久保学園 広報委員会
表題書/大久保学園長 中原 強